

2-01 魅力の創造と発信

- 視 点**
- 市民がまちの魅力を共有し、交流を深め、経済・文化が活発なまちにすること
 - 船場公園・管理棟を核とした交流人口を拡大すること
 - 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること

2-01-01 観 光

5年後の目指す姿

- 留萌らしい地域資源を生かした体験型観光と、インバウンドの受け入れ態勢整備が推進され、外国人観光客を含めた交流人口が拡大するとともに、人情港町留萌のブランド力が向上されています。

現 状 と 課 題

- 大人数で画一的な団体旅行から、小規模単位で行動する観光にシフトしてきている中、観光振興による地域活性化への気運の高まりを踏まえながら、既存産業の再生や新たな観光産業の創出による雇用の拡大などを目指した、より戦略的な観光振興施策の展開が課題となっています。
- 北海道にはアジアを中心とした外国人観光客が増加しており、留萌への誘客の検討が必要になってきています。

前 期 の 方 向 性

- 民間との協働により、体験型観光メニューの確立に努めていきます。
- 地域資源の活用を推進し、人的資源を有効活用しながら留萌の観光関連産業の進展と創出を図っていきます。
- 地域との協働と広域での連携により留萌らしさをPRし、外国人観光客を含め交流人口の拡大に努めていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
観光客の入込み数 (千人)	259.2	264.4	269.6	274.8	279.9	285.1
観光入込客宿泊客延人数 (千人)	24.8	25.3	25.8	26.3	26.8	27.3
訪日外国人宿泊客延人数 (人)	239	244	249	254	259	264

2-01-02 国際交流

5年後の目指す姿

- 民間の国際交流団体が中心となり、様々な分野での交流が行われています。

現 状 と 課 題

- 事業を積極的に展開することで、交流する機会は増えているものの、市民の外国人に対する意識や交流するための受け入れ態勢などが整備されていないため、交流が一部団体に限られ、市民レベルでの意識や理解の高まりが見られていない状況です。

2-01 魅力の創造と発信

前期の方向性

- 広く市民が参加し、留萌に在住する外国人などと交流できるような事業を支援していきます。
- 国際交流への理解と市民レベルでの国際交流が推進されるような環境づくりに努めていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
国際交流事業参加者数 (人)	103	110	120	130	140	150

2-01-03 公園緑地

5年後の目指す姿

- 市民や他都市からたくさんの人々が来訪し、子どもからお年寄りまでが安心して時間を過ごし、笑い声や笑顔があふれています。
- 船場公園「管理棟」から様々な情報が発信され、まちなかへの誘導により賑わいが続いています。

現状と課題

- 平成28年度より指定管理者制度を導入し、民間の視点による新しい発想を取り入れた公園利活用が始まりました。
- 国道231号留萌拡幅事業の栄町交差点が完成し、車と歩行者が安全に通行することが可能になりました。
- 都市計画公園上の規制内において、公園利活用の事業を展開しています。

前期の方向性

- 指定管理者制度により、子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流人口を増加させるため、様々な公園利用の可能性を探求し、有効な事業を実施していきます。

数値目標

※現状：H28見込

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
管理棟延入館者数 (人)	40,000	45,000	50,000	50,000	50,000	50,000

2-01-04 留萌港

5年後の目指す姿

- 北海道を代表する観光地(旭川・富良野・美瑛等)とのアクセス向上により、毎年、客船が寄港するなど、北北海道観光の海の玄関口として確立されています。
- 港の施設を一時的に開放してのイベントなどが行われており、港が身近に感じられるようになっています。

現状と課題

- 客船の入港は、多くの乗船客やクルーによる観光消費、関連産業への経済効果が期待できます。
- 市民を挙げた歓送迎体制の整備など、寄港地としての特色ある魅力づくりが必要です。

2-01 魅力の創造と発信

前期の方向性

- 交流人口増加を図るため、客船寄港誘致を進めていきます。
- 船場公園との連動により、港における賑わい創出を図っていきます。

数値目標

※現状：H28 見込

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
留萌港への客船寄港数 (隻)	1	1	1	1	1	1